

トップ 東北ニュース 記事

宮城のニュース

宮城 社会 新型コロナ

シェア

## 仙台でホームレス増加 若年層の相談が相次ぐ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う景気悪化の影響で、仙台市内で路上生活者（ホームレス）が増えつつある。低所得者が職や住まいを失うケースが目立ち、市内の支援団体には若年層からの相談が相次ぐ。関係者は「セーフティーネットからこぼれ落ちる人が出ないよう、生活支援の拡充が必要」と訴える。



食料の配布に並んだ路上生活者ら＝23日、仙台市

拡大写真

NPO法人仙台夜まわりグループ（仙台市）は毎週食料を配布している。23日朝、市内で実施した際は約20人が列を作った。用意したおにぎりやパンなどの詰め合わせは、10分足らずでほぼなくなった。最近ではこれまで見掛けなかった若者の姿が目立つという。

「新型コロナのせいで、ようやく見つけた仕事が無くなってしまった」。列に並んだ男性（46）は肩を落とした。今月上旬から市中心部で路上生活を続けているという。

男性は昨秋、職を求めて南相馬市から仙台市に移った。冬に東京都内で建設業の仕事を見つけて寮生活を始めた。

今年3月になると一気に仕事が無くなった。貯金は早々に底を突き、歩いて6日かけて仙台に戻った。支援団体にもらったマスクを着け、感染におびえながら路上で暮らす。

同法人の支援を受けて自立しようとしているが「今の状況で仕事を見つけるのはかなり難しいと思う」。不安を拭き切れない。

新型コロナの影響が深刻になった4月以降、同法人には生活困窮を訴える声が続々と寄せられている。


「ネットカフェで暮らし、日雇いや週単位の仕事でつないでいたが、次の仕事が見つからない」「県外の宿泊業者に就職する予定が破談になりそう。既に家を引き払い行き場がない」。相談者の多くは20、30代の若年層だという。


厚生労働省の調査によると昨年1月、仙台市内で85人の路上生活者が確認された。厳冬の調査だったこともあり、直近の数は大幅に膨らむとみられる。

同法人の関係者によると市中心部で4月以降、路上生活者が従来より多く見られるようになった。今後も、突然の派遣切りや雇い止めなどで、路上生活を強いられるケースが増える恐れがある。

路上生活者が住まいを確保し、生活を安定させるにはかなりの労力と費用が必要だ。同法人の青木康弘事務局長は「路上生活に陥らないよう、家賃援助など生活を保つための支援が大切になる」と訴える。

仙台夜まわりグループは無料の電話相談を受け付けている。午前8時～午後9時半。連絡先は050（5539）6789。


**今できることプロジェクト2019**  
 震災復興支援企画として10月よりスタート。ボランティア活動などさまざまな取り組みをしています


**河北就職ナビ2020**  
 新卒・既卒・転職希望の皆さまへ  
 宮城・東北の優良企業からのメッセージ

仙台圏の生活情報満載！河北ウイークリーせんだい